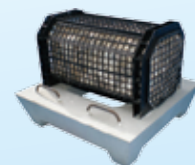


# 貝藻くん NEWS 第3号 (2021年1月)



全国各地での貝藻くんの成果に関する最新事例を報告します。

## 北海道松前町の事例

### 【調査 DATA】

- ・調査日 2020年6月17日
- ・水深 3m
- ・水温 15℃
- ・経過年月 設置後1年4カ月



調査した漁港

漁港内に設置された貝藻くんにはコンブが繁茂していて、貝藻くんの姿がわからなくなるほどでした。また、貝藻くん表面や貝殻ケースの中ではナマコの生息も確認されました。漁港内の奥で浮泥の多い場所でしたが、その分ナマコの餌は豊富で、貝藻くんがナマコの生息場および海藻の着定基質として、しっかりと役目を果たしていることが確認できました!(^^)!



引き上げた貝藻くん  
昆布でびっしり!!



表面を歩くナマコ



貝殻のすき間に隠れるナマコ



👉ここに貝藻くんがあります



貝殻ケースへの着生状況

# 山口県岩国市の事例

## 【調査 DATA】

- ・調査日 2020年11月18日
- ・水深 4.5～5.5m
- ・水温 20℃
- ・経過年月 設置後1年3カ月



山口県岩国市では地元漁協の取り組みにより3つの漁港内に貝藻くんが設置され、2019年9月にキジハタの種苗放流が行われました。キジハタは放流直後に貝藻くんを集まり、隠れる行動が見られました。今回実施した調査でもキジハタ幼魚が貝藻くんを利用していることが確認され、漁港内における種苗放流の受け皿として貝藻くんが役立っていることがわかりました。

また、貝藻くんに取り付けたタコツボではマダコが見られたほか、マナマコや小型のメバル、マダイなどが集まる様子も観察することができました。



放流直後のキジハタ種苗



放流1年3カ月後の種苗



マダコ



タコツボ内

周囲にはメバルなどが遊泳

タコツボ

貝藻くん

下部のすき間



メバル



マナマコ



# 広島県広島市の事例

## 【調査 DATA】

- ・調査日 2020年10月16日
- ・水深 5～11m
- ・水温 22℃
- ・経過年月 設置後5カ月



稚ナマコをカキ殻に付着させて放流

広島県広島市沖の似島地区では、貝藻くん設置1カ月後の5月に稚ナマコの放流を行い、その4カ月後の10月に追跡調査を行いました。追跡調査では体長1～5cmのマナマコが貝藻くん1個当たり最大32個体確認することができました。また、体長10cmほどの夏眠中のマナマコも貝藻くん下のすき間で見られ、放流ナマコだけではなく、天然ナマコの生息場としても有効に機能していることがわかりました。貝藻くんを活用することで、ナマコ資源の増産に大いに期待できます。

その他、メバルやカサゴ、マダコなども貝藻くんを利用しており、多くの魚介類の生息場としての効果も確認できました。



貝藻くんを引き上げて調査



カキ殻に付着



貝藻くんから出てきた稚ナマコ



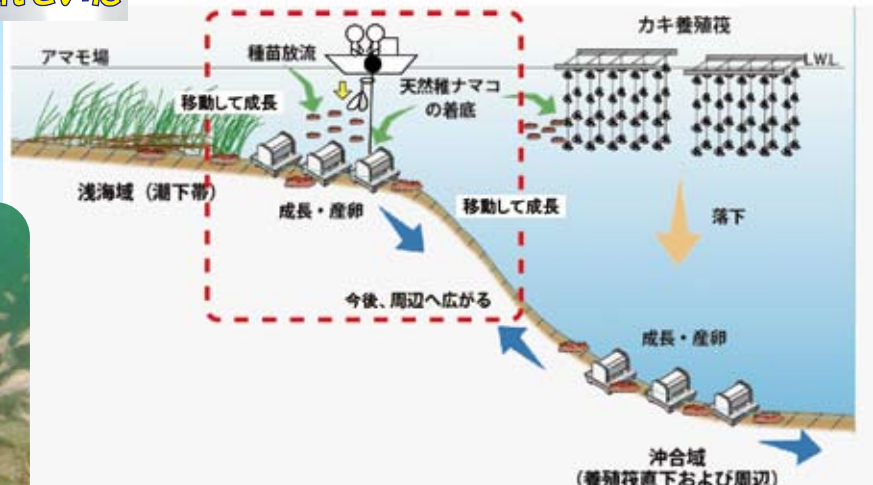
カサゴも隠れていた



マダコ



周囲に集まるメバルの群れ



貝藻くんによるナマコ増産のイメージ

# 熊本県八代市の事例

## 【調査 DATA】

- ・調査日 2020年11月25日
- ・水深 2～10m
- ・水温 19℃
- ・経過年月 設置後3年8カ月



調査海域

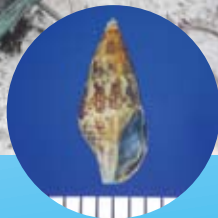
熊本県八代市では、河口域周辺の海域に貝藻くんが設置されています。過去3年以上にわたり調査を行ってきた結果、放流したキジハタ種苗の生息場やナマコの夏眠場として利用されていること、多種多様な魚介類の生息場、餌生物の培養効果など様々な効果が発揮されていることがわかりました。最近の調査は2020年7月の熊本豪雨後の11月に実施しましたが、海中は濁っていたもののカサゴなどが見られ、引き上げた貝藻くん内部も泥で詰まることなく多くの動物が生息していました。そしてなんと、絶滅危惧種であるオガイ、マルテンスマツムシ（両種ともに巻貝類）も出てきました！



豪雨後に引き上げた貝藻くん



船上で一生懸命動物を探しました

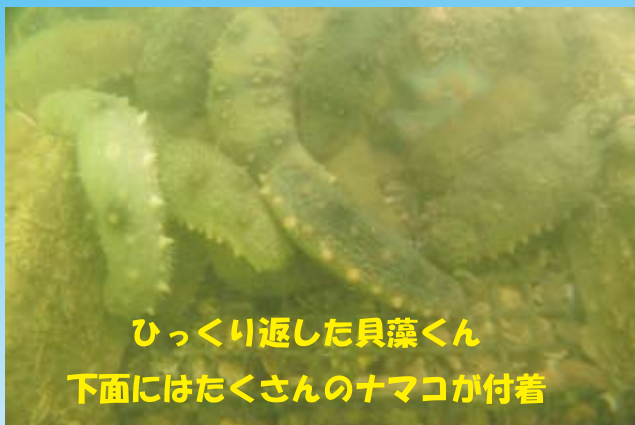


マルテンスマツムシ  
(絶滅危惧I類)

中にはいろいろな動物が生息！！



キジハタの幼魚  
(ピンボケでごめんなさい)



ひっくり返した貝藻くん  
下面にはたくさんのナマコが付着



カサゴ

※本調査は令和2年度 潜水調査業務委託により実施